

## 高等学校グランドデザイン会議第5回検討会議概要

日時：平成19年 7月23日(月)

13:30～16:30

場所：八戸地域地場産業振興センター

### <出席者>

蛇口議長 友田副議長 相川委員 飯田委員 角田委員 櫻田委員 佐々木昭則委員  
佐藤委員 高山委員 豊川委員 野呂委員 藤井委員 前田委員

### 開会

### 司会

それでは定刻になりましたので、ただ今から高等学校グランドデザイン会議第5回検討会議を開会します。

先般、大久保委員が一身上の都合により委員を辞退された事に伴い、新たに委員に委嘱された方を紹介します。学校法人青森山田学園理事長・青森山田高等学校校長木村隆文委員です。なお木村委員におかれましては、本日所用のため欠席の連絡をいただいています。

それでは、蛇口議長に議事進行をお願いします。よろしくお願いします。

### 蛇口議長

前回の検討を踏まえますと、大変いい議事録ができました。また、中間まとめと答申素案についても、大変良くまとめる事ができた事に感謝します。

ただ、最初に2つ申し上げます。まず、答申素案の「はじめに」の部分について、若干舌足らずな印象を持ちました。それから、各論部分について、皆さんの意見をできるだけたくさん書き込もうとした所もあり、やや書き過ぎている部分もあります。そこで、今日の進め方ですが、外部から色々な意見がありまして、その中でやはりビジョンが見えにくいという批判がありました。実際は、そういったものが各所にちりばめられているのが事実なのですが、どうもビジョンとして見えにくいようですので、私の方で各論から引っ張り出してたたき台を用意しました。それについて、一般の方に少し分かりやすくできないか議論をいただきたいと思います。

それから、各論部分について色々と専門委員会等で議論していただきましたので、各専門委員長及び各地区部会長から、具体的にどこが不足なのか、あるいは修正したらいいのか報告いただきながら各論をまとめたいと思います。

それでは、まず総論部分について、こうしたら良いのではというたたき台を用意しましたので配布してください。

【事務局が配布。】

蛇口議長

議事の進行についてですが、次第には各専門委員会及び各地区部会からの報告がありますが、答申素案に対する確認や修正点について、委員の皆さんの意見を聞いて委員会等でまとめた意見として報告していただくという事をお願いします。

「はじめに」の第2段落までは誰も文句は無いと思いますので、その次からが今配りました私の案です。

【蛇口議長が読み上げた。】

蛇口議長

私の感想を含めたたたき台です。これについてすぐに議論するのは無理かもしれませんが、各論の方でもそれぞれ出てきます。

大きなビジョンがあるべきだと言った委員もいましたし、各論に進んでまた戻って来たと言った委員もいました。そういう中で、実は県教育委員会の守備範囲には余る部分がたくさんありますが、それもビジョンとして打ち出してもいいのではないのでしょうか。県全体の取組としてお願いする形であれば、いいのではないのでしょうか。各論だけを読むと、一般の方が見るとやや寂しい事ばかり話されていますので、皆さんからいただいた活発な意見を記録に残した方がいいのではないのでしょうか。

実は、私の意見の中でも、これはどうかと思いを削除したのがあります。県教育委員会の枠を超えた大きなビジョンという形で書かせていただきましたが、計画を実施するにあたっては色々な所と交渉しなければいけません。県立高校のみならず、私立学校にも同じく還元されるべきだと考えますし、私立学校間で会議を開催したとしても同じように結論付けたであろう事です。県教育委員会が、県立高校のみを対象にしてグランドデザイン会議を開いた事は意義が大きい訳ですが、おのずと限界があります。若者が減って行くとやっていけないのは私立学校も同じですし、ダウンサイジングしなくてはいけないのも私立学校も同じです。県全体ではという事で、今後同様の会議を開く時には是非一緒に進めていただきたいと思います。今回も若干名私立学校の関係者がいましたが、一緒に考えるという感じではありませんでしたが、実施に移す段階では、私立学校にも等しく恩恵があるようにやっていただきたいと思います。そういう趣旨の事を書こうと思ったのですが、若干この場にはふさわしくないという事で削除しました。

今までで、何か意見があれば伺います。各論部分に入った後で戻って来てもいいと思いますが、15分くらい時間を取りますので、もっと大きな事をとか、ここは間違っている、という部分があればお話しして下さい。

A委員

議長提案の総論については賛成です。先程のお話の中で、もう一度各論で出た時には消した方がいいという事でしたが、総論と内容が重なってもいいのではないのでしょうか。できるだけ役所的な答申にしないために、という思いが総論の中で出ている気がします。

B 委員

確認ですが、事前に送られた答申素案の「はじめに」を、議長案に置き換えるのですか。

蛇口議長

第2段落まではそのまま使い、その後を変えてみたらいいのではないのでしょうか。これで間違っている訳ではないのですが、皆さんの生の声をそのまま反映させた形の方がいいのではないかという事です。

B 委員

前回の会議でも話したビジョンの話です。どういう生徒を作るのか。どういう入れ物を作るのか。どういう内容を指導するのか。そのための指導体制はどうするのか。そういったものを含めて整備するのが、グランドデザインなのではないかと思います。

C 委員

既に今までも話して来たのですが、「はじめに」は少し理解しやすい気がします。各論については、具体的な内容に入ってからでいいのではないのでしょうか。語句の修正等はあると思いますが、内容的には良いと思います。

蛇口議長

それでは、答申素案の8ページからの各論の部分に入ってよろしいでしょうか。各専門委員会において全ての検討項目について議論を展開し、まとめた形になっていますので、第1専門委員会から説明をお願いします。大体これで網羅されていると思いますので、言い足りない部分も含めて、色々な意見が出たでしようが、答申素案に関係するものについて教えてください。

豊川委員（第1専門委員会 委員長）

中間まとめを受けて、第6回第1専門委員会を開き、それを受けて答申素案ができましたので、少し時間を割いて経緯等をお伝えします。まず前置きですが、「学ぶ意欲に応えられる学校規模の維持」と、「子どもたちが高等学校教育を受ける機会の確保」の二つを掲げています。次の段落では高校教育に求められる基本について書いていますが、それらを簡単に言うと、まず教育の種類と言いますか、学校の質があります。次に、教育の質的・量的要件、つまり教員数の確保があります。3つ目に、地理的環境に必要な配

慮をする事です。これらを考える時の共通認識としては、全県的に公平に、地域の特徴を考慮し、長期的視野に立って統廃合を行う必要があり、それをまとめたのが前置き部分です。

余談かもしれませんが、「適正な」という文言について確認が行われました。諮問文の中にあるので余計な議論なのかもしれませんが、検討が進む中で「望ましい」の方が良いのではないかという意見もありました。「適正な」という言葉が否定された訳ではありませんでしたが、かなりの時間を費やし、結論としては、小規模では高校教育はできないのだから、「適正な」学校規模が必要だ、という表現なので「適正な」でいだろうという事でした。また、全体的には、文言や接続詞などを微妙に精査しました。

「(1) 1学年当たりの適正な学級数」については、本当に色々話し合い、このような結論になりましたので、これでいいと思います。

「(2) 普通科及び普通科系の専門学科、職業系の専門学科、並びに総合学科の募集割合」についてですが、これについてもかなり時間を使いましたが、結果としては第2専門委員会の方でまとめていますので、ここでは省略します。

「(3) 適正な学校規模・配置を実現するための方策」については、全県的に、例外なく、聖域なく統廃合を検討する必要がある、と伝わるように表現を変更しました。但し書きの段落についても、誤解の生じないように詳しく説明したという事です。

なお、「校舎制の今後の方向性」についてですが、校舎制とは廃校を前提としたものではありませんが、生徒数が減り活気がなくなっても、いつまでも存続される事になりかねないという危惧があるので、「一定の基準」についてここでは明確になっていませんが、ある一定の条件を明確にして欲しい、という事を付け加えたいと思います。

「(4) 定時制課程及び通信制課程の今後の方向性」について、現在果たしている役割が非常に重要だという事は確認されていますが、その中でも、工業高校の定時制課程については廃止を含めて見直しを検討する事、また、配置についても教育の機会均等の観点を考慮して見直す事としています。そして、3部制の定時制について、青森市と八戸市にありますが、弘前市の人口や地域性から考えて、弘前市にもあって良いのではないかという事が言われました。

通信制についてあまり触れられていませんが、維持して良いのではないかという事でした。

#### 蛇口議長

適正な学級数については、非常に苦労したのではないかと思います。

また、校舎制につきまして、明確な基準を設ける必要があるという事で終わっているようですが、以前に私から、過去に議会等を通して決まった事について可否を言う資格は無いのではないかという話をしました。その上で、検討会議が出した結論が「統廃合もやむなし」という事なので、校舎制についても同じ線上で考えるべきなのではないかと思いますが、その辺はどう考えますか。一定の基準とは何ぞや、という話になると思

いますが、第1専門委員会でも相当もめたのではないですか。

豊川委員

具体的に言うのは簡単なのですが、例えば、募集定員の2分の1に満たない状態が3年続いたらとか、全校生徒数が60%に満たない、あるいはそれでは全然効果が無いから80%に満たなくなったらとか、という話にはなっています。

議長が言ったように、確かに校舎制は統廃合ありきのものではないので、そうはならないだろうと思いますが、何らかの配慮をしてもらえればいいのではないかという気がします。

蛇口議長

我々が出したものが将来に渡って有効であって欲しい訳ですから、校舎制についてもその考え方を踏襲するべきだ、という理解でよろしいですか。意見はありますか。

C委員

我々が考えているグランドデザインの中では、やはり統廃合という事になると学校が1つなくなるのですが、そういう中で校舎制の基準が曖昧なままずっと続いてしまうと、整合性が無くなってしまいます。そういう意味で、矛盾が無いように、第1専門委員会が言っている一定の基準が必要になると思います。

蛇口議長

それでは、整合性を図るためにも、原則として統廃合の基準を作るように明記しますか。

C委員

今のままでは、色々な問題点が出て来るのではないのでしょうか。うちの学校は無くなるのにあそこの校舎は残っている、となると、これから実際に統廃合を進めて行く段階では問題になって来るでしょう。

蛇口議長

今後の10年で2700人も生徒が減少し、4学級規模の高校が15～17校無くならなければいけない時に、校舎制だけが残るというのはありえない事です。しかし、いつどうやって校舎制を止めるかはあくまでも県教育委員会の問題なので、我々としては、そういう方向性で考えてください、という事になります。

D委員

第1専門委員会で提示したように、校舎制でも必要な学校は残すべきですし、やはり

将来的には統廃合の対象になるという所はどんどん整理して行けばいいと思います。中間まとめ等で、そういう方向性が既に出ていますので、この形でいいと思います。

蛇口議長

結果的には、ある程度高いハードルの基準を設けて、という事になるのですね。第1専門委員会の部分について、その他に問題点はあるでしょうか。

友田副議長

文言はどうしますか。

豊川委員

残した方がいいと思います。

友田副議長

それでは、この会議で基準を出すのではなくて、答申をもらった後に県教育委員会に任せるという事になるのですね。

蛇口議長

過去の物に対して言う資格が我々には無い訳です。だから、一定の基準を設けなくてはいい、という表現で止まらざるをえないでしょう。こういうコンセンサスではいかがでしょうか。

豊川委員

基準については、議長の意見で全く問題無いと思うのですが、議長が出した資料では、コミュニティや地域への思いが強い感じがします。そこと校舎制がある意味ではつながりかねない感じがします。ですから、議長案と前のものをもっと旨くまとめられたらいいのではないかと、という感じがします。一定の基準については非常に難しいので、率直な意見を出し合っていたいただければいいと思います。これは非常に大事な部分です。

蛇口議長

色々な地域の事情も勘案しながら、統廃合をして行く訳ですから、校舎制についても県教育委員会で同じように検討を加えてください、と意見を投げ返します。その中で、コミュニティとの絡みでは、地域が学校を残しておきたいのに県立高校が無くなるのなら、住民が私立高校を作ればいいのではないのでしょうか。それくらいの大きな気持ちが無くてはいけないと思いますし、やはりコミュニティの力は尊重するべきだという意味合いです。

第2専門委員会の部分に入ってよろしいですか。

高山委員（第2専門委員会 委員長）

「社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コースの在り方」についての基本的な考え方として、今後10～20年後の社会の変化は非常に読みづらい中で、子ども達の教育の機会を、職業学科等も含めて、どういう風になるだろうと皆さんで様々な議論をしたのですが、結果的に基本的な考え方としてはこういう事だろうという事を話したいと思います。

まず、生徒達は様々な可能性を持っていますので、3年間の中で基礎基本をしっかり身に付けさせ、どんな時にも対応できるように、「はじめに」の中では世界に伍するという話もありましたが、芯の通った考え方・生き方を貫けるような取組が必要だということです。それが社会の変化に対応する一番の手だてではないか、と考えました。基礎基本を重視した学科・コース等の下、多様で弾力的な教育課程・教育内容の展開が重要だと考えます。

次に、進路を選択する中で職業観・勤労観と言いますか、大学へ行くあるいは就職する等の様々な道があると思いますが、あくまでも聖域と言いますか、一般社会と隔離された環境で純粹培養されている事は望ましくありません。社会の変化と多様な進路志望という事では、色々な実社会の方々との接触を持つような、キャリア教育も是非この中に入れた方がいいだろう、という事で基本的な考え方に入れていきます。また、この前の会議では、職業観・勤労観については第1専門委員会でも検討しているので、まとめた方がよいという事でこちらに移していただきました。

まず普通科等についてですが、大学進学も含めて、幅広い教養や進学に対応できるようにするという事が根底にあるのですが、普通科系の専門学科という部分では、志願・入学状況を見ると定員に満たない学科があったり、中学校の生徒が学科の特性を理解しないまま進学する事もある、という課題があるという事でした。そのような部分については、定員に満たない学科は再編整備する、あるいは中学校段階で十分な理解ができるよう教育内容のPRや中学校との連携が必要だと考え、次の～としてまとめています。

については、普通高校の進学志望の生徒に対しては、発展的な学習という事で、大学進学に十分対応できる学力を付けさせる、という事です。変な意味ではなく、学力の向上は当然すべきです。

については、専門学科・コースで定員に満たない場合、あるいは中学校の理解が足りない部分は反省すべきですし、解消すべきだということです。

その他では、最後に普通科の全日制単位制の話があります。全国の都道府県の情勢と合致しているという事ですので、真似をする訳ではないのですが、選択肢の拡大という面では是非やるべきだと思います。これだけの先進校の事例があるのですから、今後の方向性として出して欲しいと思います。

19ページの職業学科についてですが、第2専門委員会には色々な職業学科の先生がいるので、自身が所属する学科は非常に重要だから是非このまま残して欲しいという話

が多かったです。しかし、職業学科でも大学や専門学校へ進む生徒の割合が増えているとの事ですので、普通高校は進学で職業学科は就職という色分けで考える事は無理なのです。職業学科の中でも、大学進学への対応のウェイトが高くなり重要になった、という事を考えながら議論を進めて来ました。

について、専門化・細分化して来た学科については、生徒の志願・入学状況や進路志望や地域の産業動向等を踏まえて、基礎的な学科を基本として再編整備を進めるという事です。

については、多様な進路志望に対応するために、指導方法の充実が必要だという事です。

については、話し合いが錯綜した部分もありますが、地域の専門高校と言いますか、県等では様々な産業振興策を実施しているので、それに即した形で職業学科を考える必要があるのではないかという意見がありました。例えば、攻めの農林水産業やクリスタルバレーといった、県の施策展開の方向に合わせた形で職業高校があってもいいのではないのでしょうか。また、後の方でも出ますが、ビジネス感覚と言いますか、商業高校でも簿記やコンピュータを教えますが、これだけ県内の事業所数が減り、創業・起業の機運が高まっている中で、卒業してすぐに商売をやれという事ではありませんが、高校でも実践教育という点でそういう感覚を身に付けさせる事が必要ではないか、という点を答申の中で是非触れていただきたいと思います。

農業については、ただ耕す今までの畑作・果樹栽培ではなく、環境保全や地域のアグリビジネスといった、プラス地域との関係の大切さを教えるなど、様々なビジネスに関する教育も必要だろうという事です。

水産については、食の安心・安全や水産資源の枯渇問題等の色々な問題があるので、逆に青森県では必要だという意見も出ていました。

家庭と看護については、必要性があるという事ですので、実践的な部分ではメリハリをつけてという事でした。

総合学科について、制度がまだ浸透していないのではないかとこの部分があるが、キャリアガイダンスを通して将来の職業選択を視野に入れたこれからの生き方を学べる学科であるという事ですので、系列等の再編整備や教育内容の更なる充実を図る事により体制を整えて行くべきという意見がありました。

新しいタイプの高校や学科・コースについては、地域産業の変化や生徒数の減少という厳しい状況を踏まえて、新たに作るのではなく、今あるものを見直す事で対応できるという事です。

#### 蛇口議長

前回の議論の絡みで質問なのですが、今の高校は間口を広げ過ぎたという議論がありました。今回は新しい学科・コースについては慎重に検討するという事でしたし、定員に満たなかった学科等は見直しを検討するという事ですが、もっと厳しい意見は出ませ

んでしたか。進学か就職か生徒達に選択させるのはいつなのでしょう。中学生なのか。高校生なのか。日本では、いつまでたってもどちらでもどうぞという感じがあります。転校や転科ができるようにして、もっと厳しさがあっていいと思います。

#### 高山委員

今やっている事でも大事な事はありますし、この高等学校グランドデザイン会議に改善が期待される部分もあるとは思いますが、普通科と職業学科と見ると、進学すると決まっています。高校受験・大学受験と上昇志向が強い生徒もいるし、そうでない生徒もいるのです。そういう状況は非常に悩ましい問題で、議長が言うようにどこかでセーフティネットを作らなければいけないのですが、今の段階でもそういう機能は果たしているのではないかとともに思います。

#### 蛇口議長

進学率は相当上げなくては行けないのですが、なんとなくではなく、本当に勉強が好きな人・勉強する人を増やさなくては行けないのですから、中学校くらいから選別する必要があります。いつまでたってもどっちつかずではなく、勉強が好きなのか嫌いなのかははっきりさせてもいいのではないのでしょうか。今はアジアの子ども達が活発ですし、勉強もします。この甘い状況で、これから持ちますか。

#### 高山委員

進学の部分については、普通高校でも3市の特定校と他の普通高校では違う形だ、というのには十分意識して話をしてきました。

#### E 委員

中学校でも高校でも将来やれる事をやればよいという考えが多く、あなたはこうです、という形はやはり日本では合わないと思います。基本的には生徒は色々な環境により、先生の力により変わると言うのです。むしろそういう部分が大事なのであって、本当は先生がちゃんと教育をできるように大事にしなければいけません。ですから、むしろ単位制をとって、進路の自由度を確保すればいいと思います。何故変えられないのか不思議な気がします。今は大学ではどんどん垣根を越えて行けるようになっていますので、高校でもできるのではないかとともに思います。

#### 蛇口議長

転校の自由をどうやって保障するかという事は、前回もビジョンとしては出ているのですが、非常に難しいでしょう。3～5年間の計画でカリキュラムの再編成が必要になるとは思います。ある程度答申に盛り込みますか。

こんな優しい教育の制度でたくましい生徒が育つ訳が無い、という気がするのです。

これで国際競争を勝ち抜けますか。実際に学力は落ちていると言われています。これは青森県だけではありませんが。

友田副議長

17ページの 所です。普通科系の専門学科は、各学科1校程しかありません。外国語学科には、国際交流の受け入れという役割があります。専門学科については全国の会議などがあり、これらの学科が無くなるという事は、本県からは出席しないという事になります。今残っている学科は先端的な役割を担っている学校なので、そういう学校は残すべきだと思います。

ですから、単に一定基準で廃止するのではなく、重点学校として充実を図るなども考える必要があると思います。他県では、理数科などは増えている所もあります。

蛇口議長

産業構造なども考慮し、理数科などを増やすという事もあると思います。色々な特徴を出そうとして作った訳ですし、これらの学科について必要な学科と不必要な学科を区別できると良いと思いますが、それは難しいのでしょうか。

高山委員

それについては、定員に満たない学科という見方があります。先程、話されたように手を広げ過ぎたという事から、見直すべきだという事が委員の一致した考え方ですが、具体的な名称までは出て来ていません。

職業学科についても、農業も水産も志願者が少なくなっている学科があります。しかし、栽培する漁業・農業など、学び方を変えて、漁業・農業を核として、工業、製造業、商業などと連携しながら、青森県の目指す方向や政策に沿った取組をしている学科まで潰すべきではないと思います。

蛇口議長

志願者の有無に関わらず、青森県としてやらなければならない学科というのがあって、高大連携なども行いながら進めるなど、ビジョンを決めるのがこの会議だと思います。

E委員

今言われた方向性を示せば良いのですが、この狭い青森県においては限られた高校しか作れないと思います。そこで、高校においても奨学金制度があっても良いと思います。現在でも下北から農業を勉強しようとする、五所川原農林高校か三本木農業高校しかない訳で、お金がかかります。そういう事に対する考えがこの案では欠けています。後でお金は返せばいい訳ですから、そういう学が意気込みが大切です。

## F 委員

普通科における専門学科について、定員に満たないから切ってしまうというのはどうかと思います。保護者の立場からすると、19ページにもありますが、専門学科について、保護者も十分に理解できていないままに生徒が入学している感じがします。入学後の学科のミスマッチについて、保護者の会合でもよく聞かれますし、十分な説明は必要だと思います。

職業観というのはとても大切だと思います。就職に関する会合に参加すると、高校生の職業観・勤労観が欠けているという声がよく聞かれますし、データ的に見ると高校生の離職率が高いと伺っています。専門学校卒と専門高校卒についても、明らかに専門高校卒の方が離職率が高いと伺っていますので、職業観や倫理観は前面に打ち出してもらいたいと思います。

## 友田副議長

学科が分かりづらいという話がありました。20ページの部分ですが、「くくり募集」があります。例えば、工業高校で各学科を十分理解してから選択するという方法もあります。

## G 委員

分かりにくいという事からというよりも、先送りして何も決まっていないので取りあえず先送りして普通高校に行くが、ところが、その全員が大学には行けなく、後でどうしようかという事になっている現実があります。分かり易くするべきは、進学するのか、就職するのかを中学校段階から明確にしておく事ではないでしょうか。専門高校から進学をする道も、推薦などで増える傾向にあるので、専門高校からは専門を学んで就職か進学を選択し、普通高校からは進学を目指す、というように進学か就職かを明確にする事が必要なのではないでしょうか。

また就職をする生徒達に、社会人として必要な力を身に付けさせる事を、専門高校が担っています。これからもその方が良いと思います。その方向性を、明確にこの報告書で示すのが良いと思います。

## F 委員

就職と進学というのを、はっきりさせるというのは分かります。しかし、現在、普通高校でも進学だけでない学校もありますし、普通高校から就職する生徒もいます。

## G 委員

高校生の離職率が高いのは、普通高校から就職した者に多いという事実があります。就職をする生徒には、専門を学ぶとともに社会人としての資質を高校で身に付ける、進学をする生徒には、大学で時間をかけて身に付けるための基礎・基本を徹底する、とい

う事が明確になっていると学校でもやり易いです。

#### 蛇口議長

普通の普通高校が現実としてあり、それをどうするのかというのが私のビジョンの1つの重要な視点です。そこではまず、職業訓練や専門的な訓練中心から入ればいいと書きましたが、現実にはそれに対応できる先生がいるかという事が問題です。ですから、私の案としては、商業高校をビジネスハイスクールみたいな位置づけにし、実践力もある教員をたくさん養成し、普通の普通高校にもそういう教員を積極的に配置して行くべきだと思います。そうでないと実践的な教育ができないという危機感があります。今、現実には色々な実践的な教育が成功しています。そういう現実を踏まえて、我々もそういう方向に行くようなビジョンにしたいと思います。

ですから、普通高校でも専門高校でも、まずは進学・就職をはっきりさせる、その後には進学したいと云う生徒がいたら対応する（逆も然り）という方向性で良いのではないのでしょうか。

#### H委員

中学校長協会の意見にもありますが、中学校段階では進路を決められないという意見が結構出ています。また、学科の内容を理解しないで入っている、または、近くに行きたい学校が無いまま入って、結局ミスマッチが生じるなど、色々なパターンがあると思います。しかし、多様化する進路の全てに対応するのは現実無理ですから、そう考えた時、中学校段階での職業教育の充実をお願いする事も必要だろうと思いますし、高校も色々やってはいるのですが、やはりそうだと思います。

中高の連携は色々な形で非常に進んでいますし、小中でも結構進んでいます。ですから、その部分にもう少し提言を入れながら、全て県立高校が抱える事は無理ですので、高校ができる事はここまでと明確にする必要があります。

また、今できる事はある程度網羅されていると思います。

#### 友田副議長

今議論している、中学生段階で進路を明確に決められないというのは、大方はそうだと思います。現実を見ると、普通高校に入れなかったから職業高校に行く、という子どもが大分います。

私は、総合学科の役割が理解されていない気がします。総合学科の場合は、高校に進んでから自分の進路を見出すための学校という事ですので、これをもう少し保護者や子ども達に対して中身を理解してもらう事が必要です。勿論、自分の職業選択や普通高校に進み大学進学など、明確な子どもが進むのは当然ですが、もっと総合学科の役割を明確にして、その3年間で進学しようとか、こういう職業に就くための勉強しようとか、明確に指導して行く事も必要です。

蛇口議長

中学校段階での進路指導についてはどうですか。

友田副議長

中学生に対するキャリア教育は進められています。

蛇口議長

どちらかというに進学なのでしょうか。

友田副議長

現実には決められない子どもが多いのではないのでしょうか。

I 委員

高校を目指す場合、子どもを見ると決めかねている子が多いと思いますが、学校の指導よりも家庭の指導もあるでしょう。最近の親はできるだけ大学に行って欲しい、と考えます。専門高校に行くとある程度進路は限られている、という親の意識もあり、普通高校に行って大学へ行って欲しい、と考える気がします。

自分の夢を決められないのは、家庭が豊かになって切迫感が無いというのも一つの理由でしょう。働こうという意識が乏しくなっている気がします。

学校という事もありますが、やはり色々な面で親の意識も高めなくてははいけません。何かあると先生が先生がと言われますが、やはり家庭も色々な面でしっかりしなくてはいけないと思っています。

C 委員

地区部会でも話題になったのですが、結局子どもは理解しないで入りますし、親も理解していないのでしょう。また、高校から大学に入る時にも、同じ事が考えられます。中学校も理解する努力が必要でしょうし、高校も理解させる努力をする必要があります。

高校の体験入学はありますが、短時間で良い部分を見せますので、本当に理解しているかというところではなく、当然ミスマッチが生まれます。お互いどちらが良い悪いではなく、もっと時間をかけて努力する必要があります。

括り募集も書かれていますが、職業学科の方に入っています。普通科の専門科目についても対象になるのではないのでしょうか。人文にしても理数にしても、普通科の専門学科の方が、旨くできるのではないかという気がしています。

友田副議長

例えば普通科5学級、外国語科1学級では、40人に絞るのはなかなか難しいです。

## C 委員

括り募集には、そういう問題が必ず出ます。また、括り募集をすると、1年間の中でガイダンス、保護者面談、本人面談を経て理解を深めます。

## 蛇口議長

それでは、ここで10分くらい休憩をとります。

## 蛇口議長

地区部会からの意見を部会長からお願いします。東青地区からお願いします。

## 佐々木（昭）委員（東青・下北地区部会 部会長）

東青・下北地区部会において、中間まとめに関する各地区の方々の意見を伺いました。毎回、下北地区の方々の出席が多い事もあり、むつ・下北地区の話が中心となる傾向があります。出された意見については、大方、答申素案でカバーされていますのでよろしいと思いますが、特に目立った意見をお伝えします。

適正な学級数の部分について、三市とそれ以外という表現に抵抗感があったようです。しかし、答申素案では修正されていますので、これで良いと思います。

校舎制については、分校と同じであり必要無いという意見や、地域によっては校舎として残して欲しいという意見もあります。必要な学校はそのまま存続し、統廃合すべき学校は無くするという事です。

総合学科は、中間まとめ、答申素案ともに必要という意気込みで書かれています。しかし、もう一度十分な検証が必要であると思います。保護者や生徒の認識が低いというのは、単純にPR不足という問題だけではなく、認識できない制度上の問題があるのだと思います。そこで現在の総合学科については、数年かけて廃止・見直しを含めた十分な検証が必要だと思います。

中高一貫教育は、併設型については十分に効果が期待できそうだと思いますが、連携型については、様々な問題があるようなので検証すべきとしています。一般的な中高連携の在り方については、従来から進めて来た事なので、「また」以下の記述は不要だと思います。必要という事であれば、もっとあっさりした表現が良いと思います。

特に、話題になった事を申し上げますと、下北地区の原子力関係の新しい学科、大湊高校の中高一貫教育と総合学科の将来性、通学に不便な地域の学校の存続、青森市内の高校の統合などです。

このうち、大湊高校については、中高一貫教育校で総合学科であり、さらに川内校舎を持つ事になります。校舎側が普通科で本校側が総合学科といったバランス等に関する

指摘もありました。総合学科を充実・改善する方向はあるとしても、十分に検証する事も表現として加えていただきたいと思います。

また、統廃合については、青森市など東青地区の統廃合も十分に検討して行かなければならないという事です。

蛇口議長

西北・中南地区について、野呂委員お願いします。

野呂委員（西北・中南地区部会 部会長）

中間まとめに対して、修正・訂正等の意見は特に出ませんでした。適正な学級数について、これで良いという事です。ただし、普通科、職業学科、総合学科の割合については、あまり偏らないようにしてもらいたいという事です。普通科を増やす事で志望に応えられるという事ではなく、職業学科によっては志望の高い学科もある事を理解してもらいたいという事です。

統廃合、地区毎の学校配置については、やむをえなく、これで良いという事です。校舎制については、校舎をいつまでも残す事は無理であるが、できるだけ生徒に負担をかけないようにする必要があり、通いたくても交通機関の関係で通えない場合は、校舎制としてでも残す事が必要であるという事です。

職業学科は、余りにも細か過ぎて理解できないという事です。高校体験の場をより一層広げる必要があります、また、中学校側も高校側ももっと努力するべきとしています。

新しいタイプの学校については、現実的に生徒や保護者のニーズに沿えないのではないかとこの事から、もっとオーソドックスな形で良いという事です。

蛇口議長

大変貴重な指摘がありました。総合学科の検証が必要だという事です。普通高校でも、実態的には総合学科的に職業に関する教育をしている学校もあります。

E 委員

検証するためには、検証条件があると思います。総合学科を訪問した事がありますが、総合学科の条件を満たしていない学校もあります。条件をしっかりと決める事が必要でしょう。

D 委員

私は、制度的に総合高校という形で行うのは良いと思います。総合学科という学科は、かなり縛りがあるように思います。様々な分野が集まった総合高校という形も真剣に考えて良いのではないかと思います。

ただ、中高一貫教育の連携型で総合学科というのは、どこかの時期に真剣に検証すべ

きだと思います。

蛇口議長

ここ1、2年での検証をすべきと明記しますか。

D委員

答申に書くのは、書き方として面倒な部分があると思います。今の充実・改善を図って行くだけでなく、「検証する機会を持ちながら」という表現を加えるなど考えてもらいたいという事です。

友田副議長

総合学科については、第3の学科として、文部科学省では学区に1校を整備し選択できるように進めて来ています。現在、学区が無くなりましたので、そういう問題とどう関わるかは県教育委員会で考えて行くべき事だと思いますが、普通科、職業学科、総合学科を子ども達が選択できるようにする事を狙いとしているものです。

蛇口議長

先程の意見にもありましたように、全てを尊重するのはでなく、総合学科については検証するなど、少し踏み込んだ書き方が良いと思います。普通科の位置づけや方向性をはっきりと打ち出す事が必要ではないかという事です。

C委員

保護者の方は、普通科に入れておけばつづしが利くというのが、根本ではないかと思えます。だから普通科の希望が多く、入学してから進路を決めるという事だと思います。

蛇口議長

専門高校でも、普通高校でも、進学するか就職するかをはっきり打ち出して行けば誤解は無くなると思いますが、いかがでしょうか。

C委員

その表現は、少し危険性もあるのではないのでしょうか。職業に就くから、大学進学するからと学校を決める事は難しいと思います。

G委員

10ページですが、志向が見られるから増やすという表現はおかしいと思います。これからの世の中に対応するために普通科が望ましいというのであれば良いのですが、今の保護者の志向に合わせて普通科を増やすという表現はどうかと思います。本県の場合

は、専門学校も含め進学が6割、就職が4割です。この4割に対して、きちんとした教育を行いますという提案が必要ではないか考えます。そういう視点から普通科と専門学科の違いを明確にしておく必要があると思います。今後の社会情勢から、進学をさせたいけど経済的に無理という事例も含めると、就職をする生徒は一定数あります。その子ども達が社会に出て大丈夫な教育をどのようにして行うべきかという視点が必要だと思います。

#### 蛇口議長

文章的には確かにそうだと思います。世の中の流れに則って普通科にしましょうという事ではなかったという事です。本県の実情に沿っていないのではないかという意見もありました。

したがって、先程述べたように、専門高校でも進学率を高め、しっかり進学に対応した教育を展開するという事をどう表現するかだと思います。

#### E委員

この文章ですが、職業高校が多いという事や、生徒や保護者が普通科志向にあるというのは事実です。この事について、普通科を増やす事が望ましいという程度の表現にしています。これまで、専門高校も大事ではないかという話もして来ました。

普通高校というのは、教養教育だと考えています。専門高校に比べると教養的な部分が多いという事です。専門部分を学ぶ事から、自ずと進路も決まって来ると思います。また、色々な事を学び知識を持たなければ、実際の場面で考えられないという事があります。

そのための基礎的な事を教養も含めて普通科で学んでおり、皆さんがそういう学校を希望している訳で、社会も求めています。したがって、普通科の希望者が多いのは当然だと思います。はっきりとそういう事を書いておく必要があります。

#### 蛇口議長

上北・三八地区について、事務局からお願いします。

#### 事務局

上北・三八地区について、加福委員から事前に連絡をいただいておりますので、資料に基づき事務局から説明いたします。

適正な学校規模・配置の在り方について、特に問題はないという事です。

普通科、職業学科、総合学科の割合について、職業学科に来た生徒の中には本当は来たくなかったという声はあるが、実際にその数がどれくらいかデータ的には把握していないという事です。また、八戸市では、「みんな普通高校へ行きたい」というのが3年生担当の声、専門高校へ入学しても直接仕事には繋がらない、専門高校を出た者を企業が

望んでいない面がある、歴史的・データの考察が必要であるという意見が出されています。

定時制の役割と在り方について、多様な生徒に対応した学校として定時制の昼間部の役割は大きいので充実する。また、全日制では対応できないケースもあるという意見です。

学科・コース等の在り方について、中学校の段階は揺れ動く存在という認識に立って欲しい。中高が交流し、進路意識を育てなければいけないという書き方が望ましいという意見です。

総合学科については、「理解しにくい」とあるが、中高がお互い努力し確認し合えば良いという事でした。

新しい学科・コースの在り方については、生涯学習・ネットワーク・通信大学的に内容別に各機関で学び、単位を取って卒業するような、新しい学校を作る考え方があって良いという事でした。

新しいタイプの高校については、示されている内容で良い。工業高校の場合、あれだけの設備をどうするのか考えなければならない。単に生徒が少なくなるからという訳には行かないという意見です。

県立高等学校と中学校や大学等との連携の在り方については、高校生を見ると職業観・勤労観の育成や人間としての基礎・基本が欠けている。しかし、高校だけで人間の基礎・基本を育てるのは無理なので、やはり学校・家庭・地域が一体となって育てなければならないという意見でした。

#### 蛇口議長

定時制については、工業の定時制の廃止を含めて検討する事にしています。どちらもあった方がいいとは思いますが、1人や2人のために存続させるべきかという議論もあります。定時制高校の3部制については、青森と八戸にはありますが、弘前に無い事から弘前に作った方が良いという事です。

新しいタイプの高校についてですが、意欲的な書き方をさせていただきました。県の産業構造などを踏まえた在るべき姿について積極的に研究していただきたいと思います。旧3市の学校も含め、どういったタイプの新しい高校が考えられるのか研究会を立ち上げるなどが必要だと思えます。この答申を踏まえて検討を重ねていただきますので、実際には少し時間がかかると思えます。

それでは、連携の部分に入ります。説明をお願いします。

#### 高山委員（第2専門委員会 委員長）

現状認識として人口減少という事があります。一般的には、地域経済社会の衰退・崩壊という所まで行くのではないかという中で、これから地域を支える若い人達が産業を支えるという観点に立ち、高等学校が核となり、中学校、大学、或いは地域にある教育

機関、研究施設などの教育資源と様々な連携をして行く事が必要であるという考えを答申素案の中に盛り込みました。地域をあげて、若い人達を大きく育てて行くために協力し、多くの実体験などを通じて栄養を与える事が必要だと考えています。また、連携して行く中で学校の先生方の情報交換である等の幅広い考え方を示しています。

中高一貫については、既に設置された学校を参考に一定の評価はありますが、反省点もありますので、基本的には検証を行いながら推進するという方向です。

大学との連携については、各地域に大学がありますので、高校の生徒や教員が地域の大学と研究する機会があっても良いのではないかと考えています。地域にある資源を教育資源として生かしながら、人づくりのためにこれらの連携を推進するという方向です。

その他の連携の27ページです。ここは、地域のコミュニティを核にして、地域の関係者による情報交換や、地域の様々な人材や教育資源を生かし、多参画型の組織を作り、高校をサポートして行く事が必要だという考えです。

蛇口議長

多角的に検討いただいたという事が良く分かります。ありがとうございました。

A委員

今説明された中で、最後に付け加えられた部分について、教員自らも実践力や社会で活躍する力を身に付ける必要がある事から、大学や地域の関係機関と相互に連携し、教員のリカレント教育の充実を図るとあります。そうなると、教員を研修に出すなど、予算的な裏付けをして幅広い教員を育てて行くという事になります。現在も行われていますが、更に充実して行くというように捉えてよろしいでしょうか。

高山委員

予算をつけて研修を受けるという事の他に、地域との交わりという部分を加えて、地域の生涯教育みたいな部分と連携を深めて行くという事があります。地域の教育力を高めるために、核となる教員を育成するという事です。地域におけるリーダーとしても活躍していただければという意味も含めています。生徒への指導力プラス人間力というイメージです。

A委員

教員が色々な形で力量を高め、地域及び地域住民のためにも行うという事ですね。それは、今までも地域にある県立高校がずっとやって来た事です。私は、もっと広い意味で、教育だけでなく1年間どこかで研修させるために派遣し、そのため、空いた所に講師を派遣するなど人件費も考慮して積極的に進めるというように捉えました。

蛇口議長

それで良いと思います。それから、もう1つ、教員のリカレント教育を大学で対応し、制度化するという事があります。民間で始めるかも知れません。ただし、ここで問題になるのは、大学に教員のリカレント教育を行う能力があるのかという事です。そういう事を考えると、地域社会や社会の方が能力があるかも知れません。広い意味でのリカレント教育という事で考えてもらいたいと思います。

友田副議長

26ページで新たに加えた部分ですが、教育資源という表現があります。リソースという事だと思いますが、ハードなのか、ソフトなのか、両方を指す意味なのでしょうか。

高山委員

ソフトもハードも両方含みます。最近、分析についてスワット分析というのがあります。青森県の教育という中で、強み、弱みは何なのか、地域の強み、弱みは何なのかという事があります。強みは地域を見直す事で、忘れられている人達がいたり、行政や民間でもパワーのある人がいて、教育資源になるという観点です。リソースという捉え方で良いと思います。

B委員

中高一貫教育について、連携型に比べると併設型の方がすっきりしているように思います。学力の面、人間性育成の面の両方があると思いますが、中学校と高校の教員が相互に学校に出向いて指導するなどされているのでしょうか。お互い相手の状況を知るという事が大切ではないかと思しますので、情報交換の他に、勤務するという形での交流を考えても良いのではないかと思います。

友田副議長

前任校が連携型の中高一貫校でした。その時は、中学校が2校あり、中学校の英語や数学の先生が高校に来て授業もしています。免許が無くても臨時免許で対応したりしました。養護教諭の先生が、高校に来てカウンセリングをしたり、心のケアの面でも連携していました。それほど経費はかかっていなかったと思います。

蛇口議長

進路の決定に対して、中学校や高校の先生が連携して関わるなど、進路についてプラスになる事はあるのでしょうか。

友田副議長

郡部は2学級や3学級ですので、1人の先生の勤務時間が充足しませんから、中学校に行ったり、高校に行ったりの方が効率的です。また、互いに学校の状況が分かりま

すので、進路の面でも役立つと思います。

J 委員

中高一貫教育の論議の中で、中等教育学校という話はありませんでしたか。かつて中等教育学校の設置という事が話題になった時もありました。

蛇口議長

検討会議ではありませんでしたし、専門委員会へ検討してもらいたいという事はありませんでした。

その他、これだけは言っておきたいという事はありませんか。

F 委員

答申素案に文言として入れて欲しいという事ではありませんが、不登校の子ども達に関する事です。それぞれの学校に不登校の子ども達がいると思います。そういう子ども達がどこで立ち直る機会を得て行くのか、受け皿的になる学校はどこになるのかという事です。西北地区では、五所川原高校東校舎が閉校になりますが、そこで学ぶ子ども達がどこに行く事になるのかと考えます。そういう部分にも配慮して欲しいと思います。そして、保護者の考えとして、閉校が既定路線として決まっている段階で、敢えて校舎化する必要があったのだろうかという思いがあります。この辺は事務局サイドの対応なのかもしれませんが、そういう子ども達への対応も考えていただければと思います。

蛇口議長

貴重な意見ではありますが、グランドデザインの答申には載りにくいかも知れません。議長、副議長に御一任いただくという事でお願いします。

A 委員

議長提案の総論の部分です。議長から出された総論と素案の内容を合体させて整理する事を提案いたします。特に6ページですが、第1の国際社会の中で、第2に教育内容・方法の改善、第3に学校と地域社会の連携、第4に教育の機会均等と財政的な課題は外せないと思います。そういう事をベースに置き、はじめにの部分は議長の記名入りで出してはいかがでしょうか。

蛇口議長

その部分については、副議長に権限を委譲しまして、まとめていただければと思います。

A 委員

あまり総論で詳細な点まで書いてしまうと、各論を読まなくなりますので、各論を読ませるようにして欲しいと思います。

#### K委員

他県を参考に見ますと、Q & A形式で内容について解説しているのを目にしました。解説により中学校側や一般の方にも、中高一貫や単位制とはどういう事なのかという理解が深まると思います。答申を作るという事だけでなく、分かり易くPRする方法も工夫する必要があると思います。

会議の際、私達も専門外という事もあり、分からない言葉があり戸惑いがありました。ましてや一般の方々に意見を書いていただく場合、専門用語が羅列されると、戸惑って面倒くさいという事になるとと思いますので、分かり易くする工夫が必要だと思います。

#### 事務局

今ご提言いただいた事について、私共も新しい制度等を作った際、Q & A形式のリーフレットを作ったり、ホームページにおいてQ & A形式で解説するなどしております。今後、実際にこの会議で話された事をアナウンスして行かなければならない訳ですから、ご提言の内容を十分検討し、一般の方々がしっかり理解してもらえるよう進めたいと考えています。

#### 蛇口議長

今後の進め方について、事務局から説明をお願いします。

#### 事務局

本日いただきましたご意見を踏まえて、修正等の作業を議長、副議長と進めたいと思います。今日の段階で言い残した事など意見がございましたら、7月31日までに文書等で提出いただき、議長、副議長とともに検討し、最終答申案の作成を進めたいと思います。今後、意見をいただいたものについては、8月中にまとめ、委員の方々の送付した上で、字句の修正等を加えて最終答申案にしたいと考えております。

#### 蛇口議長

一応、事務局案では、8月に専門委員会、地区部会を開催する事としていましたが、その必要性は無くなったと考えていいですね。その辺について、専門委員会、地区部会の皆さんはいかがでしょうか。全て議論し尽くされたので、今後は字句の修正等になるという事です。それでよろしいでしょうか。

#### 事務局

それでは、各専門委員会、各地区部会の対応については了解しました。次回の検討会

議の日程につきまして、皆様のご都合を確認した上で開催の連絡をさせていただきます。

蛇口議長

大体いつ頃になりそうですか。

事務局

9月の下旬か10月上旬になると思います。

前田委員

それが最後の会議になりますね。

事務局

今回の素案から意見いただいた部分を修正したものを最終案として示し、ご検討いただく事としています。

蛇口議長

もし次回修正の意見があれば、その場で再度修正し完成となります。

皆様のご協力が無事終了する事ができました。ありがとうございました。